

# 第4回

## 地域包括支援センター展勝地

### 圏域内介護支援専門員研修会報告

平成30年10月16日10:00～

ケアハウスエスカール 会議室

# 参加者

- ① やちだもの家北上ケアプランセンター
- ② 介護相談センターふたご
- ③ エスカール在宅介護支援センター
- ④ 居宅介護支援事業所浮牛の里
- ⑤ 八天の里在宅介護支援センター
- ⑥ グループホームやちだもの家北上
- ⑦ グループホームくちない
- ⑧ グループホームさらき
- ⑨ 看護小規模多機能居宅介護きずなの森
- ⑩ 地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里
- ⑪ 特別養護老人ホーム八天の里
- ⑫ 地域の支援者：民生委員、福祉協力員、社協支部職員
- ⑬ 介護者家族
- ⑭ 行政・他地域包括
- ⑮ 介護サービス事業所

## ①前回の振り返り～「地域の支援者と課題のすり合わせ」

- ・ 要介護認定魔の高齢者の支援について
- ・ 閉じこもり、ひきこもりの方へのかかわり方
- ・ 高齢者と猫問題

## ②講演「認知症について」

講師：及川脳神経内科クリニック 及川 深雪 医師

- ・ 認知症の疾患ごとの症状（どのような周辺症状がみられるか）
- ・ うつ病、せん妄と認知症の鑑別
- ・ 受診拒否される方の支援

## グループワーク（テーマ2つ）

1. 受診の勧め方（ご本人ばかりでなく、ご家族も受診拒否の場合）
2. 認知症サポート（ご本人に対するサポート、ご家族に対するサポート）

### ①グループ「受診の勧め方」

- ▶ ・物忘れ気になるようになり、アドバイスを受けてかかりつけ医を受診。いつもは一人で受診していたが、今日はたまたま休みだからとご家族が付き添った。「MRIはみんなしているよ。」と内科疾患も絡めて、普段の治療の流れからうまく勧められた。薬も年も年だし、予防するための薬だよと説明。
- ▶ ・初期に受診するのもポイント
- ▶ ・内服管理は、家族も関わるが本人のプライドを傷つけないような配慮も必要。本人が自分で内服したいときは、3日分くらい渡して家族が確認する。
- ▶ ・家族介護者へのサポート→話せる場所があれば気持ちが悪くなる。

# グループワーク

## ②グループ「認知症についての困りごと」

- ▶ ・及川脳神経内科クリニックができて、専門医がいるよと勧めることができる。
- ▶ →安心感、連携、繋がられる。
- ▶ ・認認介護→薬の管理を誰がするのか。病院が嫌い。薬を処方されたが内服しない。薬剤師の介入も拒否される。
- ▶ →こまめな介入。顔の見える関係。安心感。薬局さんが気づいてくれる。
- ▶ ・家族のサポート→民生委員、CMの前では良い顔をしているが、帰った後に喧嘩をしている。
- ▶ ・介護している家族は「せん妄」の意味が解らない。→その場で本当にわかっていたか確認も必要。せん妄ですと言われても、言われた方も良くわからず、不安ばかりだった。
- ▶ 今日の説明で納得。薬のせいもあつたんだと理解。
- ▶ ・テレビでの情報収集→特集も組まれているが、偏った考えもある。正しい情報を伝える。
- ▶ ・認知症と認めたくない→自分が…。親が…。介護者が背負わなければならない精神的不安。
- ▶ 気持ちを軽くしていただきたい→愚痴を聞く役必要。
- ▶ ・気持ち→介護者>本人→本人の本当の気持ちは？CM聴いてみる。（介護者のパワーの方が強くなるので）

# グループワーク

## ③グループ「受診の勧め方」

- ▶ 掛けボラ・ひどくなる前に受診できれば。年齢によっては検診。受診ではなく→検診。
- ▶ ・お金がかかるから受診したくない→済生会、生活保護など制度を活用。
- ▶ ・足がないから受診できない。協力者いない。→出向いて検診。ボランティアによる送迎。
- ▶ ・移動手段：社協→予約とれない。使えないことも多い。
  - ▶ : バス→難しい。
  - ▶ : タクシー→高い。 ※訪問診療、送迎付き検診。
  - ▶ : 家族→遠慮
  - ▶ : 近所の人→逆に高くつくことも
- ▶ ・高齢者意識も変える→納得してもらえないと大変。やってもらって当たり前
- ▶ ・伝え方：家族→検査を受けてみたら？など
- ▶ ・診断後のフォロー→納得できないと治療を拒否する。薬声ンティアあれば。

## グループワーク

### ④グループ「受診の勧め方」

- ▶ ・地域から見る目「あの方大丈夫かな～？」
- ▶ ・本人の症状によっては地域から孤立→包括や第3者に関わってもらおうと繋がりやすい。
- ▶ ・家族が本人の生活に興味を持っていない。
- ▶ ・家族関係が希薄→「地域でみていかなければならない」
- ▶ ・身内の方にも一緒に関わってもらおうと繋がりやすい。

# グループワーク

## ⑤グループ「受診の勧め方」

- ▶ ・病院に行きたがらない→本人が拒否するので、なかなか受診できないし家族も拒否する。
- ▶ ・受診しない方→誰の言うことも聞かない。人と接しないので、このままで良いか心配。冬になると、ますます引きこもってしまうので心配。
- ▶ ・段階的に病院受診に繋がるきっかけを増やしていければ。
- ▶ ・家族の中でもコミュニケーションがない。→楽しみが多ければ認知症から遠のくかも。
- ▶ **「集まりの場、話せる場」**
- ▶ ・会話が大事→ストレスをためないで話をできる場があれば良い。
- ▶ ・認知症カフェの周知が必要。→ネーミングが健康な人は近寄りにくいかも。シルバーカフェなどに変えてみる。
- ▶ ・コミュニケーションの場を作りたい。→窯で器づくりをしている方地域で喫茶店（お茶のみの場）をやりたいと思っている。
- ▶ ・施設のなつまつりに、地域の方から参加して良かったのかと声があった。福祉に対する風通しを良くしていきたい。
- ▶ ・同窓会などの集まりを大切にしていこう。



# グループワーク

## ⑥グループ「認知症をサポートするには」

- ▶ ・サポートする方も受ける方も→逃げ道を作ってあげる。
- ▶ ・演技してもできるだけ笑顔で接する→ほかの人にあとで話して泣く。
- ▶ ・ご本人の戸惑い→本当はそうなりたくない。でも...不安、自分じゃなくなる。
- ▶ 介護者の心からの訴えは伝わるか→伝わっていることもある。
- ▶ 一人暮らしの人が増えてきた。昔されたことをやってしまう。
- ▶ ・ご家族の戸惑い→認知症であることはわかるが、受け入れられない。
- ▶ 症状が進行するたびに改善されないことにイラ立つ→施設に対しても
- ▶ ・肉親（男性）は受け入れにくい→寝たきりになってようやく受け入れた。
- ▶ ・傾聴する。
- ▶ ・介護者の葛藤をどうサポートするか→訪問看護、入浴車など訪問系サービスを使った。
- ▶ →家族には見せない表情を見せた。
- ▶ ・後悔はするけど、その時にできることをやれたと思えるようにする。

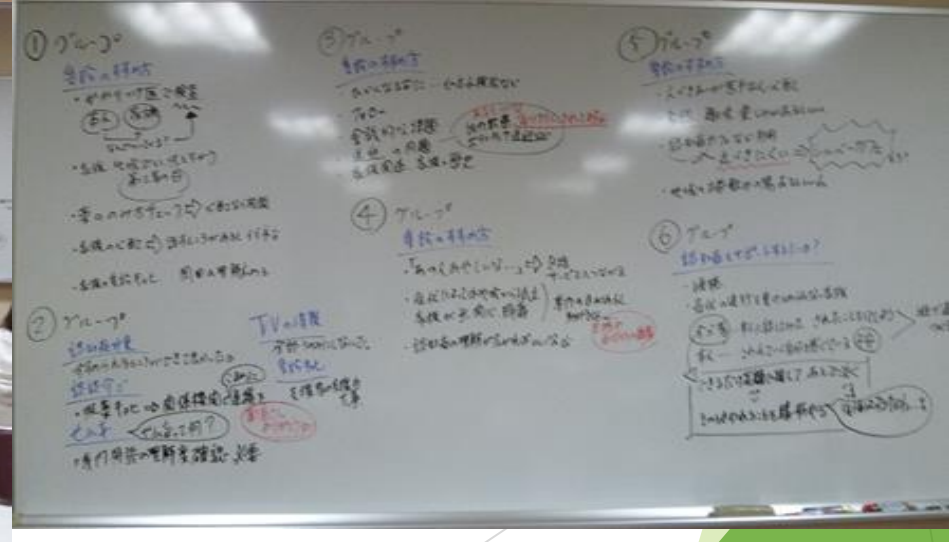
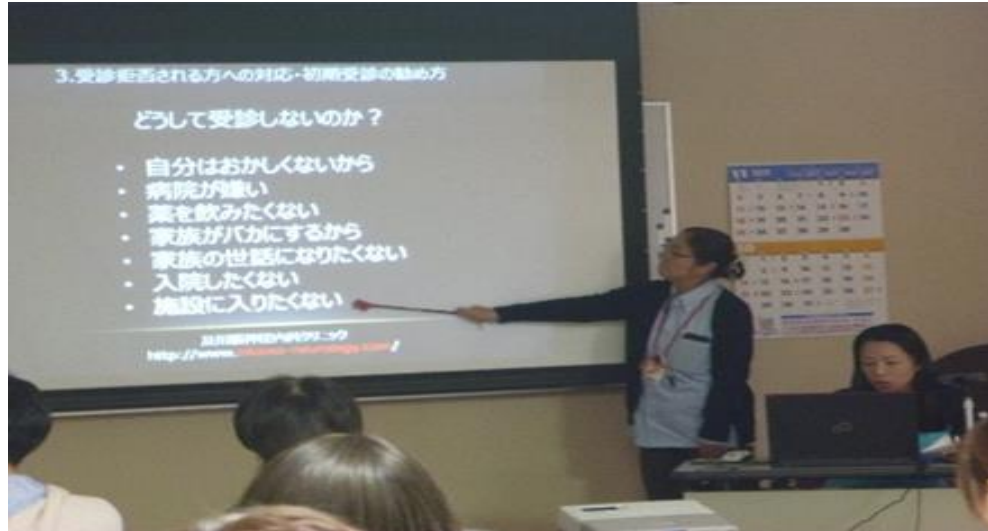
# 認知症地域支援推進員から

- ▶ 認知症カフェなどの紹介
- ▶ 初期集中支援チームについて

## 次回開催案内

- ▶ 場所：口内地区交流センター
- ▶ 日時：平成30年12月11日（火） 10:00～11:30
- ▶ 講演：「精神疾患について」
- ▶ 講師：岩手中部保健所 保健師 佐賀 唯衣 氏

# 研修の様子



## 第4回地域包括支援センター展勝地圏域内研修会アンケート結果

### ●参加者26名中 20名回答

① 今日の研修についてはどうでしたか？当てはまるものに○をつけてください。

1. 良かった 20名 2. まあよかった 0名 3. あまりよくなかった 0名 4. よくなった 0名

※上記を選択した理由(今日の感想も含めて)

・地域を支援している方のお話を聴けて良かった。「認知症を地域で見守っていく」ということは、ずいぶん浸透しているが、その際、地域での具体的な支援ということも必要と感じた。

(地域もどこまで…という迷いがある)

・及川先生のお話や包括支援センター、ケアマネージャーの方々のアドバイスを伺い、こちらも今までの不安やこれからの不安について、一緒にお話を聴いていただき、心が軽くなった。こうした活動に一生懸命な地域にいて、信頼できる先生もいて、本人も家族も幸せなんだと思った。

・いろいろな見方を教えていただき、自分の一方向の見立てだけにこだわらずに考えることの必要性を強く感じ、医療・地域・介護との連携の必要性を感じた。

・認知症専門医の先生からのお話は、解りやすく、振り返りにも参考になった。深雪先生ならではのアイデアが広く伝われば良いと思った。

・専門医の先生からの解りやすく、丁寧に説明していただき良かった。今後は地域に繋がりそうな予感も見えてきてすごく良い成果だと思う。シルバーカフェなど。

・改めて認知症について学ぶことができた。とても解りやすかった。グループワークで介護する家族の気持ち、支援する人の気持ちを考え、改めて様々なことを考えました。

・ケアマネとして心穏やかに、ご利用者やご家族の思いを受け止められるようにしたい。

・認知症の解りやすい説明で、自分自身の振り返りも含めて、とても勉強になった。また、グループワークでも受診のこと、家族としての勧め方も教えていただき、良かった。

・地域の方のお話を聴くことができ、貴重な機会となった。先生の講演もわかりやすくとても勉強になった。

・いつかは自分もかな？と思い、みなさんの思いを受け止めて聞いた。

・立場の違う方たちの話を聴くことができ、とても参考になった。

・認知症についてとても解りやすい講義だった。グループワークでも沢山の参考になる意見が聴けて良かった。

・認知症の家族の方のお話や及川先生の話も聴けて良かった。

・地域の皆さんからいろいろ話を聴けて良かった。及川先生の認知症のお話を聴けてとても参考になった。

・認知症は広く深いことにまずはびっくりした。自分のためにとても勉強になり、地域の人たちにも伝えたいと思った。

・地域支援員の方の生の声を聴くことができ、問題が具体的にわかりとても参考になった。

また、他グループの発表でも様々な考えを聴くことができ、自分が普段考えないことなど気づくことができとても良かった。

・認知症の詳しい症状について知ることができた。受診の勧め方、いろいろな方法を聴くことができた。

・現在認知症の知人あり。即活かしたいと思う。

② 連携したい事業所・関係機関などありましたらご記入ください。

1. 社協、社協支部 3 回答

2. 民生委員、地域包括支援センター、地域方・ボランティア団体 2 回答

3. 医療機関(訪問歯科:できること、できないこと聞きたい) 4. 市役所 5. 警察

6. 消防 7. デイサービス

※3~7までそれぞれ 1 回答

③ 今後研修したいテーマ、その他聴きたい講演会・講師などありましたらご記入ください。

① 認知症 4 回答(専門医による地域への働きかけ、同じテーマで別角度の話聴きたい)  
(認知症の家族の方や地域の方の対応について、他事業所での認知症の取り組みの話聴きたい)

② 精神障害 3 回答(接し方)

③ ひきこもり 3 回答(接し方、対応、家族との関り)

④ 記録 2 回答(簡潔明瞭な正しい記録の残し方、記録の効果的な入力の仕方について)

⑤ 地域の人たちとのコミュニケーションの取り方 (年代にあった行事のとり方)

⑥ デイサービスの成功例

⑦ その他、現在悩んでいることなど何でもご記入ください。

・介護家族がクレーマーで、対応に不安がある。

・福祉の風通しを良くするためにできることをみんなで話し合い、実際に動きたいと思っているが、何をしてもよいかわからない。

・業務で記録入力が追い付かない。

・在宅復帰できなくなった方の自宅整理について

・人数不足で皆さんとの連携や期待に応える体制がとれない。

・まだまだ、解らないことばかりなので、その都度ご相談に乗っていただけるとありがたい。